

研究 Report

No. 5 令和2年12月 池袋本町小学校

今回の研究 Report では、第5回目の3年3組の研究授業の様子をお知らせします。今回の校内研究は、道徳科を通して周りの情報に流されずに与えられた情報の正誤性を確認・判断し、正しいことをしていくために大切なことについて考える授業です。他者から聞いた話の真偽を判断するには、その情報の根拠を明確にすることが大切であり、周りの話や雰囲気によって流されて誤った行動をとらないようにするためには、どのような判断力が大切なのかを道徳的価値から児童に考えさせました。

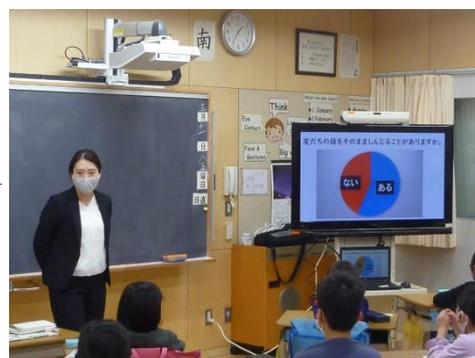
主題名 「正しいと思うことを」

教材名 「友だちの話」

【主な学習活動】

(1) 導入

学年のアンケート結果を見て「友だちの話」の受け止め方の認識について、学年や学級の実態を確認しました。



(2) 展開

教材文の内容を確認しながら、主人公の考えを話し合いました。友達から第三者のうわさ話を聞いたとき、主人公はどんなことを考えたのかについて、話し合い、周りの友達が信じている状況に流され、主人公もうわさを信じていることに気が付きました。



(3) 展開②

自己の振り返り

今回の学習を通して学んだことやこれからの生活に生かしていきたいことを自身の生活経験に当てはめて考えました。

- ・友達から聞いた別の友だちの話は、すぐに信じないで確認をしていきたい。
- ・うわさ話をしている人をとめたい。
- ・自分で見たり聞いたりしたことを信じるようにしたい。

などの意見が出ました。

(4) まとめ

実際に世の中で起こった出来事を取り上げ、うわさ話の真偽を確かめられないまま、よかれと思って周りの人に伝えたことで起こったトラブルを紹介し、自分で確認したり、正しいと思うことを考えて、判断したりしていくことの大切さに気付かせました。

